

【授業概要】

高等師範科

	内容 (目標)	時期	時間	必修・選 択科目	実務経験があ る教員による 授業	成績評価の方法	
1年	和裁Ⅰ前期	着物を仕立てる前工程の理解と運針の重要性を実習を通して学習し、理解する。浴衣の縫い方を理解し、一人で完成することができるようにする。	4-9月	732	必修	○	学期末までに日々の課題の状況、平常の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする。和裁Ⅰを総合的にひとつの評価をする。
	和裁Ⅰ後期	長襦袢のそれぞれの縫い方を理解し、1人で完成することができるようにする	10-3月	762	必修	○	
	着付け	☆自装・浴衣(帯形 文庫 貝の口)・襷・染の着物(太鼓結び・二重太鼓) (自分1人で制限時間内に美しく着る)	年間	43	必修		学期末までに日々の課題の状況、平常の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする
	茶道	☆割り稽古・盆路点前・薄茶平点前 裏千家 (上記の点前を割り稽古等を行うことで学び、1人でできるようにする)	年間	40	必修		
	服飾雑貨	☆着物に合う巾着や髪飾りなど (それぞれの作成物の作り方を理解する)	年間	3	必修		履修の有無を判定
	和裁補足講義	☆被服材料整理学(和裁に用いられる各種材料 その保管と手入れ) ☆和装マナー(和服の美しい装い方 マナー) ☆ゆかた・長襦袢の仕立てについて(実習では確認できないことや注意点を講義を受けることで理解する)	年間	11	必修		履修の有無を判定
	説話	☆心の成長の手助け (自分や他人・物事について考え、自己成長に繋がるきっかけを見つける)	年間	3	必修		履修の有無を判定
	染色講義	☆日本の伝統的な染織とその方法 (主に上記を理解する)	年間	11	必修		履修の有無を判定
	染色実習(選)	☆藍染にて作品作り (型作成から染めを学ぶ)	年間	33	選択		履修の有無を判定
	目標資格	・国家技能検定和裁技能士3級・和裁初級認定証(全国専修学校各種学校総連合会)				1年次計 1494時間	
学習要項	和裁の基礎知識、技術の習得に励みます。特に基本となる運針を磨くことに全力を注ぎます。基本的実習科目を理論と並行して学び、ゆかた・長襦袢を自分一人で縫い上げられるようになるまで徹底的に指導します。専門教科としては被服材料学、被服整理学・和装マナーを学びます。						
	内容 (目標)	時期	時間	必修・選 択科目	実務経験があ る教員による 授業	成績評価の方法	
2年	和裁Ⅱ前期	単衣着物の縫い方を理解し、1人で制限時間内に完成することができる	4-9月	760	必修	○	学期末までに日々の課題の状況、平常の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする。和裁Ⅱを総合的にひとつの評価をする。
	和裁Ⅱ後期	長襦袢、浴衣の仕立ては完成度の向上、荷短縮を。子供物、二部式等少し違う形のもの仕立てはその習得を目指す。単衣、袴着物の素縫いでは生地性質に注意しながら安定した仕上がりを目指す。素縫いの完成度、目標時間をクリアしたらまとめ工程に入り、袴着物を1人で完成できるようにする。	10-3月	790	必修	○	
	着付け	☆他装 染の着物(太鼓結び・二重太鼓・文庫・ふくら雀) (自分1人で制限時間内に美しく着せれる)	年間	33	必修		学期末までに日々の課題の状況、平常の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする
	茶道	☆薄茶平点前・講義・茶会 裏千家 (上記の点前を1人で作り、学内の茶会で披露する)	年間	13	必修		
	和裁補足講義	☆着物・子供物・コート等仕立てについて (実習では確認できないことや注意点を講義を受けることで理解する)	年間	6	必修		履修の有無を判定
	説話	☆心の成長の手助け (自分や他人・物事について考え、自己成長に繋がるきっかけを見つける)	年間	3	必修		履修の有無を判定
	染色実習(選)	☆藍染にて作品作り (型作成から染めを学ぶ)	年間	33	選択		履修の有無を判定
	目標資格 取得資格	・和裁中級認定証(全国専修学校各種学校総連合会)・国家技能検定和裁技能士2級・茶道裏千家 小習				2年次計1550 時間	
学習要項	1年次に学んだ基礎を更に充実させるため、専門的科目の学習に移り、自分一人で正確に縫い上げられるようになるまで反復練習を繰り返します。和服についての専門知識を深めるため理論も並行して学んでいきます。着付けは他装に進み、着付け師の認定証を取得します。茶道も一通りのお点前ができるようになります。説話の講座も学び、さらに教養を高めます。						
	内容 (目標)	時期	時間	必修・選 択科目	実務経験があ る教員による 授業	成績評価の方法	
3年	和裁Ⅲ前期	単衣羽織、袷羽織の縫い方を理解し、1人で制限時間内に美しく完成することができる	4-9月	775	必修	○	学期末までに日々の課題の状況、平常の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする。和裁Ⅲを総合的にひとつの評価をする。
	和裁Ⅲ後期	付下、訪問着、振袖、留袖等縫い方を理解し、1人で完成することができる	10-3月	808	必修	○	
	和裁補足講義	☆特殊な仕立てについての確認 (実習では確認できないことや注意点を講義を受けることで理解する)	年間	3	必修		履修の有無を判定
	説話	☆心の成長の手助け (自分や他人・物事について考え、自己成長に繋がるきっかけを見つける)	年間	3	必修		履修の有無を判定
	染織生地	☆日本の伝統的な染織とその方法	年間	16	必修		履修の有無を判定
	染色実習(選)	☆藍染にて作品作り (型作成から染めを学ぶ)	年間	33	選択		履修の有無を判定
	目標資格 取得資格	・国家技能検定和裁技能士2級・和裁上級認定証(全国専修学校各種学校総連合会)				3年次計 1583時間	
学習要項	1、2年次で学んだ専門技術をもとに、更に応用を加えプロとしての高度な技術、知識の習得に努めます。教材には、高級品を用いて良いものを見分ける目を養う他、特殊なものまで幅広い技術の習得に努めます。専門教科としては、色彩学を学んでいきます。説話の講座を受けさらに教養を高めます。						

	内容 (目標)	時期	時間	必修・選 択科目	実務経験がある 教員による 授業	成績評価の方法	
4年	和裁Ⅳ前期	コートの縫い方を理解し、1人で制限時間内に美しく完成することができる	4-9月	645	必修	○	学期末までに日々の課題の状況、平常の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする。和裁Ⅳを総合的にひとつの評価をする。裁断も同様、総合的にひとつの評価をする
	和裁Ⅳ後期	着物を1人で仕上げられ、扱いの難しい生地にも対応し、職業として通用する常に安定した技術習得を目指す。さらに着物用のコートも1人で仕上げられるようにしていく。	10-3月	646	必修	○	
	裁断実習	浴衣、長襦袢、単衣着物の裁断(着物の生地を理解し、1人で裁断することができる) 袷着物、羽織、コートの裁(着物の生地を理解し、1人で裁断することができる)	年間	366	必修	○	
	和裁補足講義	☆和裁・裁断についての確認 (実習では確認できないことや注意点を講義を受けることで理解する)	年間	3	必修		履修の有無を判定
	説話	☆心の成長の手助け (自分や他人・物事について考え、自己成長に繋がるきっかけを見つける)	年間	3	必修		履修の有無を判定
	染色実習(選)	☆藍染にて作品作り (型作成から染めを学ぶ)	年間	33	選択		履修の有無を判定
	目標資格 取得資格	・高度専門士 ・国家技能検定和裁技能士2級				4年次計 1657時間	
学習要項	プロ和裁士としての技術を確立するために3年間学んだことの再確認をし、それと共に裁断実習、仕上げ実習を集中的に学びます。真の和服の専門士として完成を目指します。国家技能検定をはじめ、あらゆる資格を取得するように指導します。						
	内容 (目標)	時期	時間	必修・選 択科目	実務経験がある 教員による 授業	成績評価の方法	
5年	和裁Ⅴ前期	さまざまなものの縫い方を理解し、1人で制限時間内に美しく完成することができる	4-9月	645	必修	○	学期末までに日々の課題の状況、平常の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする。和裁Ⅴを総合的にひとつの評価をする。裁断も同様、総合的にひとつの評価をする
	和裁Ⅴ後期	裁断から仕上げまで、一人で完結できるようになる。今までの学習の成果を発揮し、1人で後輩へ教えることができる	10-3月	646	必修	○	
	裁断実習	裁断基礎実習A・Bの復習と技術向上 (着物の生地を理解し、1人で早く裁断することができる)	年間	366	必修	○	
	説話	☆心の成長の手助け (自分や他人・物事について考え、自己成長に繋がるきっかけを見つける)	年間	3	必修		履修の有無を判定
	和裁補足講義	☆和裁・裁断についての確認 (実習では確認できないことや注意点を講義を受けることで理解する)	年間	3	必修		履修の有無を判定
	染色実習(選)	☆藍染にて作品作り (型作成から染めを学ぶ)	年間	33	選択		履修の有無を判定
	目標資格 取得資格	目標資格を各自設定。国家技能検定和裁技能士1級取得や、さらに実践的にいろいろな呉服店に合せた仕立てやりフォームができる技術習得を目標とする。				5年次計 1657 時間	
学習要項	それぞれの和裁の技術に応じて、発展の技術習得に動みます。それぞれの目標を明確に設定し、達成できるように徹底的に指導します。また、将来、指導者や経営者として活躍できるための知識取得や意識を醸成します。						
				【高等師範科】実務経験にある 教員による授業科目の合計数 (時間)		合計 7941時間	